

1, 本年度重点的に取り組んだ教育目標

- (ア) 子供たち一人一人の育つ姿をしっかり捉え、教職員間で共有しながら個々の育つ場面を見つけて成長につなげる。
- (イ) コロナ禍に変更した教育内容の良いところも取り入れながら、子供たちの成長に必要な教育内容を精査し、幼児期の子どもの育ちの充実を図る
具体的な教育活動の取り組みとして
 - ① 年間を通して週に1回英語のネイティブ教師に来園してもらい体を動かして遊びながら英語に親しむ時間を設ける。
 - ② 園庭の一部に芝生を敷いて築山を整備し自然豊かな環境を作るとともに築山を上ったり下りたりすることで遊びながら体幹やバランス感覚を養うことができるようにする。
 - ③ 絵本に触れる機会として年長組を対象に週に一回絵本の貸し出しを行う。各教室にも自由に本を手にとることができるスペースを設ける。
- (ウ) 園内外においての教員の研修の機会を多くとり教育の質の向上を図る
- (エ) ICTを利用して保護者向けに動画を配信し、子どもたちの園行事の様子を知らせる。

2, 教職員による取り組みの評価

- (ア) 教職員全体で子どもの教育に携わり、保育後の会議では、子どもの育ちを共有し、個々が伸ばせるよう向き合った。個別の対応が必要な場面が重なってしまったときには、対応が難しいこともあったが、自由に動ける担任をもっていない先生が対応するなどした。
- (イ) コロナ禍で制限された教育活動の代わりに行った活動のうち子どもにとって良かった点については、今後も継続していくようにした。歌の代わりに取り入れたカスタネット遊びは日常的にリズム遊びができ自然とリズムをとれるようになったので今後も継続したい。餅つきの代わりに取り入れた焼き芋大会は、芋ほりとの連続性があり子どもの好きな行事にもなったのでそのまま継続する。手洗い、水飲みなどの生活習慣は、風邪や感染症の予防にもなるので今後もこの励行を続けていく。
<具体的に今年度取り組んだ教育内容の成果として>
 - ① 英語教育については、子どもたちが英語に触れること機会を作ったことで外国人教師に慣れ、自然と外国人と交流する姿が見られた。また、英語だけではなく他の言語にも興味を示す様子が見られた。区主催の小学校で行われる英語の体験会にも参加し積極的に取り組む子どもたちの姿が見られた。
 - ② 築山と園庭の自然環境を豊かにすることでたくさんの昆虫が夏から秋にかけて生息し観察したり捕まえたり、友達同士で昆虫の名前や生態を調べたり探求する姿勢も養えた。築山では、年齢に応じて色々な傾斜の斜面を上り下りする子供たちの姿が多く見られ活発に活動していた。
 - ③ 絵本がすぐに手に取れる環境を作ることによって、子どもたちが、絵本に触れる機会が増えた。年中、年長児では文字に関心を持ったり文字を追って音読しながら読む姿が見られた。
- (ウ) 夏休み中や1年を通しての研修に参加し、研修してきた内容を教職員の間で共有した。保育に必要な知識と視野を広げることができた。日々の保育の中でも子どもたちへの声掛けや話す順番、準備する製作物などの研修を行い研鑽に努めたが、行事が多い2学期は、研修の機会を設けるのが難しい事もあった。

(エ) 連絡用アプリを用いての保護者への連絡が多く、重要なプリントを確認できない事もあった。動画の配信は、行事の様子などを知らせることができよかったが、全体的に映しているつもりではいても子供の動きによってよく動画に映っている子どもとなかなか映ってくれない子どもがいて平均的に映すのが難しかった。行事全体の雰囲気や保護者に知らせる程度となった。

3. 学校関係者による取り組みの評価

- ① 担任、副担任が入っていても集団活動が苦手な子どもの対応に先生の手が取られてしまっている様子が多々見られた。時には、全体へ目が届いていない様子も見受けられたが、子どもの変化にはすぐに気づいて対応してくれている様子があった。
- ② 全員の先生が、園児の名前を覚え、常に保育に参加している様子があった。担任の先生以外から子どもの様子を報告受けることもありみんなの先生に見てもらっていると感ずることが多かった
- ③ 連絡帳の2か月に1回の先生からのお手紙は、毎月にしてもらえると子供の様子をもっとわかってありがたい。降園時に子どもの様子をもっと話せたらいいかと思うが、人数も多いので難しいかもしれない。
- ④ 連絡帳のコメントを通して子どもの様子が共有できた。子どもの困りごとに関していろいろな先生が声をかけてくれ解決に向かっている様子も分かった。
- ⑤ 行事が戻ってきて幼稚園での生活で刺激も多く、成長を感じた。3学年一緒の運動会は、よかったが、事前に時間配分をしたらもっと時間通りに進むと感じた。お遊戯会は縦割りでやっているが同じ学年間の物も見なかった。作品展は、時間に制限がなく自由に来られよかったが自転車が置けないのが不便だった。音楽会は祖父母だけでなく父母も招待してほしい。コロナ禍に行ってくれた夏休みのテーマ別の預かり保育をまた行ってほしい。
- ⑥ 幼稚園でできたことに自信をもって家庭でも一人で取り組む姿が見られた。たくさんの先生がほめてくれ伸ばしてくれたのを感じた。
- ⑦ 園庭や築山での活動、マラソンや園外で体力がついた。一緒に歩いていても疲れることなくよく歩くようになった。
- ⑧ 虫や花など自分で図鑑を調べて話すようになったり家庭で質問してくるようになった。
- ⑨ 文字やの読み書きや絵の描き方や運動などできることが自然と増えていき子どもの成長を感じられた。家庭で好きな絵本を字をおいながら読んでいる姿が見られるようになった。
- ⑩ 英語が今年から導入され子どもたちも楽しみながら触れているのを感じた。外国人にも臆することなく挨拶する姿が見られた。
- ⑪ 行事の動画は、長時間になり画質もいいものが配信されるようになった。ダウンロードができるようになったのもよかった。幼稚園での日常の動画も配信してほしい。
- ⑫ 教職員の負担軽減のためパソコンやアプリをもっと利用してほしいと思う。緊急時のお知らせは、7時でなく6時30分にしてほしい。

4. 今後の取り組みについて

教職員の研鑽を重ね子供の成長につなげたい。個々の園児に寄り添えるよう今年度は、教職員の数を増やしているのでクラスを巡回しながら適切な配置ができるようにしたい。

コロナウイルスの感染対策による制限もなくなったため教育活動を充実し子どもたちの育ちに必要ない行事や体験を取り入れていきたい。保育における計画をしっかりと行い、園庭活動をはじめとする様々な教育活動が十分にできるようにするとともに、個々の遊びに目を向け、教職員全体で子どもの遊びの幅が広がるよう努めたい。

計画的な教員の研修は、常に必要であり視野を広げるためにも協力して研修に取り組み教育の質の向上に努めたい。

保護者への行事の連絡は計画的にまとめて伝え、動画も活用して園での子どもたちの様子を実際に見てもらえる機会を増やしていきたい。降園時の保護者との話す機会の確保や行事の時の自転車の駐輪は、周辺住民との兼ね合いもあり解決は難しい。